

学校・家庭・地域の三者で育てるハキハキ・ニコニコ・モリモリの東っ子

新宮東小学校はコミュニティ・スクール(CS)4年目を迎えました。地域社会とともに存在する学校であることをふまえ、学校・家庭・地域の三者がそれぞれ役割分担と連携・協働を

し、共に子育て(共育)をする取り組みを推進しています。全ての地域住民・保護者がCSの一員としての自覚を持ち、連携・協働体制で「共育」の推進を図っています。

災害による『児童の引き渡し訓練』

～学校・家庭・地域の危機管理意識を高めるために～

町では震度5弱以上の地震が発生した場合、学校で保護者に児童の「引き渡し」をすることになっています。集団下校での児童の安全が確保しにくい大雨、洪水、竜巻、不審者などの場合も同様です。そこで、初めてとなる『児童の引き渡し訓練』を行いました。学校・家庭・地域が災害への危機管理意識を高め、三者が連携・協働して防災教育を行ったり災害に備えたりすることを目的としています。町議会議員、学校運営協議会委員、各区長、民生委員、町教育委員会、町消防団、PTA役員のみなさんに参加していただきました。学校から訓練の趣旨や流れを説明し、見ていただいた後、今後に向けて協議しました。津波警報が出されたという想定で、全校児童が校舎の3階に避難し、その後、津波警報が解除され、児童は各教室に戻りました。そして、「ミテルちゃんメール」で保護者に



▲学校・家庭・地域の三者による協議

児童の引き渡しをおねがいし、順次、お迎えにきていただきました。

災害時は、中学校生徒・幼稚園児の引き渡しや地域住民の避難と重なることが想定されます。また、交通機関の乱れなどの課題も見えてきました。より一層、学校・家庭・地域との連携が必要になってくることを実感できた訓練となりました。



▲児童の引き渡しに備え整然と待つ保護者



▲引き渡しカードで保護者を確実に確認

4つの 観点で評価

終了後、参加者のみなさんに評価をしていただきました。

- ①児童の行動は安全な集団避難の仕方となっていた。
- ②保護者への教室での引き渡しは混乱なく行われていた。
- ③一方通行の階段や廊下は、保護者引き渡しの通路として有効に機能していた。
- ④教職員は冷静に対応できていた。